

於大のみち

歴史散策路



東浦町観光協会
〈東浦町役場内〉

愛知県知多郡東浦町大字緒川字政所20
TEL (0562) 83-3111



東浦町観光協会HP

32 (平成四年以降) 緒川新田に保安林を利用した「高根の森」や、緒川駅前後の武豊線高架事業、東浦町と刈谷市を結ぶ新しい都市計画道路知多刈谷線の完成が間近になりました。

31 (平成四年) 町福祉センターと児童館が完成。新しい東浦町誌の編纂をはじめました。平成一〇年に本文編を発売し、以後資料編を刊行していきます。

30 (平成三年) 愛知のふるさとづくり事業として、東浦町では「ひがしうら歴史ネットワーク」於大のみち」をつくりはじめました。今後生立ち広場、再会広場、門前広場に石彫やモニュメントを作っていきます。

29 (平成三年) 町中央図書館が完成しました。図書館と文化センターや東浦中学校などを結ぶ「さくらはし」が明德寺にかかり八重桜の咲く於大の道に花を添えました。

28 (平成二年) 国から交付される「ふるさと創生」資金の使い道を、東浦町では「於大まつり」とこれに関連した「イメージ景観の創造」と決め明德寺川の堤に八重桜を植えました。

27 一九八九年(平成元年)於大公園にプールが完成しました。今後「子ども遊び場、ハーブ園お花見広場のある緑の勉強ゾーン」などをつくりまます。

25 (昭和六一年) 東浦町と南設楽郡鳳来町と姉妹交流を開始(同六二年)西部中学校開校。都市計画道路衣浦西部線の一部が開通しました。

26 (昭和六三年) 町営北部グラウンド・岡田川テニス場、町観光・農業センターが完成。あいち健康の森基本計画策定会議が発足、国立長寿医療センターの立地が決まりました。

20 一九四八年(昭和二十三年)六月一日町制施行して「東浦町」となりました。人口一五、六七七八。前年には首長公選となり県知事と東浦村長の同時選挙が行われました。

19 (昭和二二年) 一九四七年(昭和二二年)六三制新教育制度となり、東浦中学校が開校しました。職員数一七名、生徒数五六五名が石浜と緒川に分かれた校舎で勉強しました。

23 (昭和五四年) 緒川城址へのタイムカプセルを埋設。開封は二〇四八年です。町民憲章制定、卯ノ里小学校開校、町勤労福祉会館も完成し、結婚式も行われるようになりました。

22 (昭和五二年) 町の花ウノハナ、町の木クスノキと制定。町保健文化センターが完成。文化センターが完成。産業まつり、健康まつりが始まりました。

21 (昭和三九年) 東部知多衛生センターが完成(同四六年)町救急隊が発足(同四八年)県立東浦高校開校(同四九年)広域消防発足(同五一年)北部中学校が開校しました。



おまんと(駆け馬)
町内各地の祭礼時(9・10月)に行われ、祭礼の名物として親しまれています。

18 (大正七年) 一九一八年(大正七年)衣浦湾でとれる金目の白身は江戸時代から有名で、尾張藩へ献上していましたが、次第に減ってきたので白身保護規制を定めました。

17 (明治四一年) 一九〇八年(明治四一年)役場をそれまでの石浜から緒川に移転。大正十四年には竹塚八番地へ新築。昭和四十三年六月一日に緒川字政所二〇番地に移りました。



善導寺
嘉吉3年(1443)創建と伝える。於大は生前善導寺を菩提所と定め、自身の所持品を寺に納めている。慶長10年(1605)には、緒川城主水野分長が水害を受ける海辺から現在地に移築。於大の位牌を安置し、寺領20石と屋敷を寄進した。



うのはな館 (東浦町郷土資料館)(埋蔵文化財センター)
郷土の歴史や文化を紹介する施設として、また、埋蔵文化財や歴史資料の調査・研究の拠点として「うのはな館」は平成11年11月にオープンしました。「うのはな館」では、貝塚や古窯などからの出土遺物、古文書、民具等の文化財資料を収集、保管し、それらを展示、公開するとともに、生涯学習の支援のため、歴史講座・陶芸教室などを開催しています。

秋

だんつく獅子舞 藤江神社(10月)

毎年祭礼時に五穀豊 穡の祈りとして行われ、別名「八つ頭の舞」としても呼ばれ愛知県無形民俗文化財に指定されています。





東浦巨峰ぶどう狩り

8月21日～9月中旬

町内森岡地区を中心に巨峰ぶどう園が35ほどあり、美しい景観と新鮮な空気のもとで、ぶどう狩りが楽しめます。

夏



巨峰ワイン

新鮮で香り豊かな「巨峰ワイン」は、女性に好評で、贈り物、おみやげに最適です。

⑬ 一八八六年 (明治十九年)
東海道本線(明治二十二年)に先がけて、武豊線 武豊―熱田間三十五キロメートルが開通しました。

⑭ 一九〇六年 (明治三十九年)
五月一日、森岡村・緒川村・石浜村・生路村・藤江村の五か村が合併して東浦村となりました。人口は九〇六一人、六六六戸でした。

⑮ 一九〇七年 (明治四〇年)
尋常小学校四年の義務教育が六年となり、高等科が二年となりました。大正時代になると児童・生徒がいちじるしく増加しました。

⑫ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑬ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑭ 一八八六年 (明治十九年)
東海道本線(明治二十二年)に先がけて、武豊線 武豊―熱田間三十五キロメートルが開通しました。

⑮ 一九〇六年 (明治三十九年)
五月一日、森岡村・緒川村・石浜村・生路村・藤江村の五か村が合併して東浦村となりました。人口は九〇六一人、六六六戸でした。

⑯ 一九〇七年 (明治四〇年)
尋常小学校四年の義務教育が六年となり、高等科が二年となりました。大正時代になると児童・生徒がいちじるしく増加しました。

⑰ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑱ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑲ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑳ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉑ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉒ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉓ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉔ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉕ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉖ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉗ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉘ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉙ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉚ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉛ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉜ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉝ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉞ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㉟ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊱ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊲ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊳ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊴ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊵ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊶ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊷ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊸ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊹ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊺ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊻ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊼ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊽ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊾ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

㊿ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

於大まつり

八重桜のきれいな4月中旬に、明徳寺川沿いの於大のみち、乾坤院、於大公園を舞台に広範囲にくり広げられるイベントのメインである於大行列は、徳川家康の母於大の方を先頭にゆかりの各大名の行列が続ぎ、盛大に催されます。



春



「東浦の歴史」(右岸)

① 紀元前約五〇〇〇年 (縄文早期)
入海貝塚ができ入海式尖底土器が発見されました。「国指定史跡」
また、紀元前約一〇〇〇年 宮西貝塚、石浜貝塚ができました。

② 五〇〇〇年ころ (古墳時代)
いまの森岡保育園庭に、村木村の豪族の墓といわれる金鶏山古墳ができ、首の長い壺などが発見されました。「町指定文化財」

③ 七一〇年ころ (和銅三年ころ)
生路の浜でつくった生道塩が、奈良の平城京や京都の東寺へ、いまの税として送られていました。

④ 一三六〇年 (延文五年)
小川城主小川正房は美濃・尾張の守護土岐氏に攻められ、兵糧がなくなつて討死にしました。先祖小川重房から八代、一八〇年で亡びたのです。

⑤ 一三九一年 (明徳二年)
この年創建の石浜明徳寺は、もとは於大の道の明徳寺川畔にありましたが、洪水のため流失し一七一年に現在地へ移動しました。

⑥ 一四七五年 (文明七年)
水野貞守が小川城と宇山乾坤院をつくりました。小川城はその後緒川城と改めました。「町指定文化財」

⑦ 一五三三年 (天文二年)
四代緒川城主水野忠政は、刈谷にも城を築いて緒川・刈谷両方の城主となりました。そこで刈谷の侍屋敷を緒川町と名づけました。

⑧ 一五五四年 (天文二三年)
今川義元が京都へのぼるため村木砦を築いて合戦となりました。緒川城主水野信元と織田信長の連合軍は鉄砲を使って勝ちました。

⑨ 一六二二年 (元和七年)
緒川村と石浜村は田で使う水に苦しみ、明徳寺川の水争いが何度もあり、緒川村は池の水を、石浜村は川の水を使えという藩の裁決を受けたこともありました。

⑩ 一六五二年 (承応元年)
衣ヶ浦(衣浦湾)にそつた田は、ほとんどが新田として開発されたもので、一番古いと考えられるのが石浜村の子新田です。

⑪ 一六六八年 (寛文八年)
昔藤江は大府市横根の藤井大明神の氏子でした。横根村が寛文八年山車を新調したので、それまで行っていた「だんつく獅子」の舞を藤江村が受けつぎました。

⑫ 一八五三年 (嘉永六年)
米蔵司令長官ペリーの浦賀来航以来、尾張藩では外国の敵にそなえて、緒川高根山の山頂をはじめ六か所へのろし台をつくりました。

⑬ 一八八六年 (明治十九年)
東海道本線(明治二十二年)に先がけて、武豊線 武豊―熱田間三十五キロメートルが開通しました。

⑭ 一九〇六年 (明治三十九年)
五月一日、森岡村・緒川村・石浜村・生路村・藤江村の五か村が合併して東浦村となりました。人口は九〇六一人、六六六戸でした。

⑮ 一九〇七年 (明治四〇年)
尋常小学校四年の義務教育が六年となり、高等科が二年となりました。大正時代になると児童・生徒がいちじるしく増加しました。

